

曇雨天に対する農作物の技術対策

令和元年7月4日
農業技術課

6月下旬以降、曇雨天が続いています。今後も同様な天候で推移する可能性が高くなっていますので、農作物の管理に十分注意してください。

1 週間天気予報

7月4日5時 山梨県の週間天気予報

日付	4木	5金	6土	7日	8月	9火	10水
山梨県 府県天気予報へ	雨のち曇 	曇 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 	曇 	曇 
降水確率(%)	-/80/50/20	20/30/20/20	60	50	40	40	40
信頼度	/	/	C	C	C	C	C
甲府	最高(°C)	28	28 (25~33)	27 (24~32)	27 (24~32)	29 (26~34)	28 (25~31)
	最低(°C)	/	23	22 (19~24)	21 (19~23)	21 (18~23)	20 (17~23)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
			最低気温		最高気温		
甲府	平年並 13 - 34mm		21.0 °C		29.7 °C		

2 農作物の技術対策

(1) 果 樹

曇雨天が続くと日照不足により、モモの着色不良等が懸念されるので、次の管理を徹底する。

<モ モ>

- ・除袋は、通常より2～3日早めに行う。
- ・枝吊りや支柱の立て直しを行い、樹冠内部や樹冠下に十分日光が当たるようにする。
- ・着色期の品種では、徒長枝の切除や摘心、葉摘みを行う。樹冠下の明るさの目安は木漏れ日が約20%透過する程度とする。
- ・反射マルチは早めに敷き、反射率の高いものを使用する。
- ・熟期になった果実は、熟度を優先して硬度2kgを下回らないうちに収穫する。また、集出荷施設では、前予冷施設や保冷などを活用し、収穫後の熟度の進行を抑える。
- ・果実腐敗病の発生に注意し、露が切れたタイミングで防除を行う。

<スモモ>

- ・支柱の立て直し、徒長枝の切除、摘心などの管理により、樹冠内部に十分日光が当たるようにする。とくに、結実不良の園では、新梢が過繁茂になりやすいので、新梢管理を徹底する。

<ブドウ>

- ・棚面の明るさ確保のため、着色期までに新梢誘引の見直しを行う。棚面が暗い場合は、副梢の葉を2～3枚残して摘心する。着色始めの極端な新梢の剪除は、逆に着色不良を招くので行わない。
- ・べと病等の発生が心配されるが、成熟期まで葉を健全に保つため、防除暦を参考に防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。

(2) 野菜・花き・水稻

<野菜>

- ・ナス、トマト、キュウリ等の果菜類では、疫病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生の防止に努める。
- ・葉根菜類では、べと病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、適切な薬剤散布により、病害発生の防止に努める。
- ・トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。
- ・圃場の過湿を防止するため、圃場周囲には排水路を整備する

<花き>

- ・疫病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生の防止に努める。
- ・鉢間隔を広げたり、追肥等の適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。

<水稻>

- ・補植用の置き苗は、いもち病の伝染源になることが多いので、不要になった置き苗は速やかに処分を行う。
- ・冷水灌漑がい田、日照不足田、窒素過多田などでは、いもち病の予防散布を行う。
- ・いもち病の早期発見に努め、発生がみられる水田では、直ちに薬剤散布を行う。

(3) 畜産

- ・飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ・降雨により畜舎内の湿度が上昇する場合は、換気や通風を適時実施するなど、畜舎内環境の改善を図り、疾病発生予防及び家畜のストレス低減に努める。